

宮城県色麻町

持続可能な未来をつくる、色麻のいま。

2022.12.01

Vol.

10

December, 2022

第 10 号
隔月 1 日発行

しかま支え合い 情報誌



特集

タレント集団の地域づくり

顔を合わせることは

コミュニティづくりの基本

工夫しながら続けたい



SDGs 目標 11



秋まつりの運営の中心を担った伊藤敏之さん。

朝早くから餅の準備をする、地区の女性陣。



地域に寄り添う 三年振りの秋まつり

令和四年十一月十三日(日)、宮城県色麻町志津地区のセンターの中では、もち米の炊ける香りがしていました。この日は地区の秋まつりです。今年収穫されたもち米をお餅にして、地区の皆さんに振る舞います。「もち米はもちろん、あんこもえごまも、全部町内で採れたもの、全部地産地消ですよ」と話すのは、地区の庶務会計を務めて十一年になる伊藤敏之さん(六九)。伊藤

さんは、この秋まつりの運営を担当してきました。「今はこのとおり、コロナ禍ですから、開催を危ぶむ声も聞かれました。でも、行事がないと地域も元気がなくなってしまうから、感染対策を万全にして、開催することにしました」と話します。入り口では検温・アルコール消毒。会場には「黙食」の貼り紙と、できる限りの対策をしました。女性陣は朝の八時から餅の準備をしており、その努力を無駄にしないためにも、入念に対策しました。

顔を見るのが コミュニティの基本

「コロナ禍を考えれば慎重になるのも分かる。だからといって、あまり中止にしすぎるのもどうかと思う」と話すのは、志津地区の佐藤一区长(七七)。「顔を見ないと、調子がいいのか悪いのか全然分からないし、声の掛けようもない。顔を合わせるのがコミュニティの基本なんだから、こういう機会は中止ではなく、工夫して続けるべきだと思う」と、切実に

語っていました。何もしなければ文句も言われないので、やらない方が楽ではあります。が、それでは地域が廃れていくと佐藤区長は考えています。その想いが通じて、地域の皆さんも多く参加され、町長にも参加していただきました。

この日振る舞われた餅は、あんこ・えごま・ずんだ・納豆・雑煮の五種類。今年収穫されたばかりのもち米で作ったお餅を、郷土の味付けで楽しむことができました。



佐藤区長(前列右3人目)と志津地区の皆さん。町や各種団体の要職を務めるタレント揃い。

世代も国も越えた交流 豊富なタレントを育む土壤に

秋まつりには、子どもから高齢の方まで、様々な世代が集まります。同地区で株式会社MHファームを営む早坂さん

生のビナさん(三〇)は、「ここは静かな町なので、安心します。色麻に来てハッピーです」と笑顔で話します。

(三一)は、「家族と、同じで働く外国人技能実習生の方々と一緒に参加されてきました。実習生の子達は農村出身の子が多いので、色麻はちょうどいいんだと思います。三年目の子から、今年来たばかりの子もいますよ」と紹介してくださいました。「ずんだ餅が好きです。」と笑って話すのは、メイさん(二七)。地域の行事に参加できて楽しいそうです。同じ研修

世代も国も越えて、いろんな人が交流できる地域柄が、豊かなタレントが育つ土壤になっているのかもしれない。コロナ禍も、志津地区の皆さんは、楽しみながら乗り越えられ

←挨拶をする
佐藤区長。

17 パートナシップで
目標を達成しよう



SDGs 目標 17

MH ファーム早坂さん家族と技能実習生の皆さん。

町長の挨拶を聞く参加者の皆さん。

しかま支え合い掲示板

地域の活動情報をお寄せください!
生活支援コーディネーターの菅原が伺います!

こんにちは!色麻町生活支援コーディネーターの菅原一杉です!
皆さんの地区で地域のために活動されている方や地区での活動、お茶飲み会や各種ものづくり等の情報がありましたら、色麻社協(65-2260)までご連絡ください。
生活支援コーディネーターの菅原が取材にお伺いし、支え合



色麻町社会福祉協議会
色麻町生活支援コーディネーター
菅原 一杉

情報誌にてご紹介させていただきます。
皆さんの地区の活動が、よりよい社会づくりに貢献していきます。
ご協力よろしく
お願いいたします!

EYE'S



●ふれあいは一と訪問お弁当配達日●
今月は22日(木) 23日(金)です!!

町内の七十五才以上の一人暮らしの方のお宅に、協力員さんが訪問する「ふれあいは一と訪問」。十二月はお弁当配達の日になっています。
配達日は二十二日の木曜日と、翌二十三日の金曜日です。
今回は加美農生考案のお弁当です!いずれもお昼時にお伺いします。お楽しみに!

ふれあいは一と訪問



色麻町社会福祉協議会

このマークが目印です。

しかま支え合い掲示板

加美農高生から鉢植えのプレゼント ふれあいはーと訪問

10月19日(水)に行われたふれあいはーと訪問で、加美農高より、生徒さん達が育てた鉢植えを提供していただきました。今年提供いただいたのは、ミニシクラメンの花で、白やピンクの花を咲かせています。一部の地区では、加美農高の生徒さんも配達に同行しました。思いがけない生徒さん達の訪問に、対象者の皆さんは、顔をほころばせていました。

鉢植えを受け取った皆さんからは、「きれいなお花をいただけてとても嬉しいです」、「久しぶりに高校生の人たちと話せて楽しかったです」といったお声をいただきました。加美農生の皆さんが育てたお花が、高齢者の皆さんを元気にしていました。



協力員さんに鉢植えを渡す加美農の生徒さん。



対象者の方に鉢植えを渡す加美農高の生徒さん

色麻町老人クラブ連合会 新愛称「かっぱクラブしかま」

10月25日(火)、色麻町農村環境改善センターにて、色麻町老人クラブ連合会の設立60周年記念大会が行われました。大会の中で、以前より公募していた同会の新愛称について、「かっぱクラブしかま」に決定したと、高橋克明会長より発表されました。愛称の応募は、全国から152件に上り、関心の高さが伺えました。高橋会長は、「高齢者のほとんどの方が『老人』という言葉に忌避感を抱いています。『老人』という言葉はもう時代にそぐわないのでしょうか」と話していました。

色麻町老人クラブ連合会は設立60周年を迎え、新たに「かっぱクラブしかま」として生まれ変わりました。ご関心のある方はぜひ入会していただき、地域を盛り上げていただきたいと思います。



式辞を述べる色麻町老人クラブ連合会の高橋克明会長。



記念寄席にお出でいただいた、東方落語代表の今野家もう世さん。

しかま支え合い情報誌 vol.10

発行：社会福祉法人色麻町社会福祉協議会

〒981-4122 宮城県加美郡色麻町四竈字杉成 27-2

TEL：0229-65-2260 FAX：0229-66-1713

E-mail：shikama.shakyo@vesta.ocn.ne.jp

URL：http://www.shakyo.or.jp/hp/287/

しかま支え合い情報誌は、色麻町生活支援体制整備事業の一環として発行しています。